

心理相談研究第2号発刊に寄せて

京都橋大学心理臨床センターは、本学の教学理念である「自立・共生・臨床の知」を推し進めるべく、2013年7月に地域社会へ開かれた相談機関として、地域のみなさまの心の支援を目的に開設されました。本年度は3年目に当たりますが、京都市やお隣の滋賀県大津市などからの成人の方々や子どもたちにご利用いただいています。また、2016年4月からは、京都橋大学大学院健康科学研究科健康科学専攻が開設され、本センターは心の専門家を目指す大学院生たちの実習機関としての機能を併せ持つ心理相談機関としてさらに成長することを目指しています。

まだ、歴史の浅い機関ですが、少しずつ地域のみなさまに周知され、さまざまな問題や悩みを抱える方々の心の援助を行うようになり、年々利用者も増えてまいりました。これまですべての心理相談について、臨床心理士である教員が担当してまいりました。当為のことですが、各担当者が専門性の高い支援にあたるるとともに、センター内でのケースカンファレンスを開いて事例検討を行うなど、相談担当教員は丁寧な援助活動の実施に尽力してまいりました。今後、院生指導にあたるにも、利用者最優先の姿勢を身につける実習機関としての準備が整いつつあると考えております。

また、開設以来の学外の方々を対象とした各種講座もつづけて開催しております。

子育て支援を目的とした「パパとママの心育て広場」は、主に近隣の地域の親子のみなさんが参加されていますが、継続的な参加が定着し、ご家庭の土曜日の習慣となりつつあります。親子それぞれの心の健康と成長を促し、地域の親同士・子ども同士の親しい交流を深める場として、今年度より山科区の「きずな支援事業」にも採択されました。本センターが、地域の子育て支援の一つの基地として機能していく土台となりました。

「対人援助職セミナー」は、医療・福祉・教育などの専門職を対象とした、支援者支援を行う講座です。本セミナーも、3年目となり、継続的に参加されることが常態となってきました。社会のさまざまな局面で各年代の人々を支援される専門家自身が、臨床心理的な支援者支援を渴望しておられることの顕れではないでしょうか。当センターは、今後もこのような支援者支援の機会を、コンサルテーションと合わせて提供してまいりたいと思います。

「臨床心理セミナー」では臨床心理士を対象に、本学教員の専門性を活用して、研修の機会を提供させていただいております。臨床心理士の方々の研鑽にお役にたち、延いてはクライアントの方々の利益に繋がれば、本望でございます。

さて、本紀要は、このような本センターでの臨床心理活動を展開している相談担当教員による研究論文・報告を掲載しております。ご一読載いて、ご意見・ご示唆を賜ることが出来ましたら幸甚に存じます。

どうか、今後とも京都橋大学心理臨床センターの臨床心理実践活動へのご理解ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2016年 早春

京都橋大学心理臨床センター長

日比野 英子